

9/2 第一回「やさしい日本語」ってなあに？ を受けての感想

衝撃をうけたことは、私達が相手のことを気遣って、やんわりと使っている会話や文書が、日本語を母国語としていない人にとっては、理解できなくトラブルになる場合もある。

震災時、「建物内危険」や、「給水車」などの言葉が理解できず二次被害が、多くあったことです。

言葉について私の例をあげると

- ・新語⇨Z世代などは理解できなくてもそれほど困りません(知らなくて恥ずかしいくらい)
- ・停電や断水、堤防決壊、給水車が来ることなど意味がわからなければ、生死に関わることがある。

書いてあること、聞いたことの意味がわからなければ困るが、わからない言葉の重要度がまずわからないことが重大。

自分から積極的に交流やボランティアをすることができなくても「やさしい日本語」を使うことで、色々な母国語を使う人との共生につながると講座を受けて思いました。

ミニミニ情報(少しだけ今日習ったことから)！！

- ・氏名、年齢は「なまえ」「とし」と表現。
- ・学級閉鎖は、私ならクラスが休みと説明してしまいましたが、「〇年〇組は、病気の子供が多いです。学校に行ってはいけません。」と説明しなくては、学校に行くことが禁止の理由がわからず不安になること。「休みです」では、平日は学校に行かなくてはと家庭で思われているので学校に来てしまう。

私達が長年の生活で身につけてきた当たり前は、補足・説明がない場合は相手には伝わらないという現実には徐々に衝撃を受けました。

私達は思いやりをもって接しているつもりでも、相手にはその想いが伝わら

ずトラブルになってしまうこともあるということがわかったただけでもこの講座を受けて良かったです。

講座の参加理由は皆さんそれぞれ違い、最初は緊張と恥ずかしさで静かに始まりましたが、先生の明るく、ユーモアを交えての実例などで、リラックスして受けることができました。

次回からの講座も凄く楽しみです！

外国語を話すことも聞くことも出来ない私ですが「やさしい日本語」を使うことで、日本語を母国語としない人との交流や日本で生活する助けになる!!
とても有意義な講座でした。

こまつ市民大学サポーター 荒谷